

瑞穂町教育委員会
教育長 鳥海 俊身 様

瑞穂町立瑞穂第一小学校
校長 石坂 隆文
(公印省略)

令和4年度 学校評価報告書

1 自己評価

(1) 評価及び成果と課題

評価項目	評価	R3評価	成果	課題
1 学力向上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研の成果を活かして、言語能力の向上、特に読むことへの学力向上ができた。 ・読書活動の充実や読み聞かせの機会を増やし、児童書の貸し出し冊数が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末のワークテスト等では、点数のアップはあるが、国、都、町の学力調査では、平均に届かない学年、教科もあり、新出の問題にも対応できる学力を身に付けさせる。
2 健康・体力	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに設定されている全校運動週間等目標をもって取り組み体力向上が図れている。 ・感染症対策による運動不足解消やコミュニケーション作りのため、教員も積極的に児童と外遊びをしたことで、体力向上につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストでの課題が学年や項目ごとに異なり、それらの向上を意識した年間を通した指導をする。
3 道徳教育	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書やノートを活用して多面的、多角的に考えさせる授業を展開し、自分にとって身近な課題を通して道徳的な心情を育むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科となって6年経つが、依然として、みんなで議論し、考える部分にさらに焦点をあてる必要がある。
4 特別支援教育	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童の実態、発達段階等に応じた指導、支援ができた。 ・特別支援コーディネーターを中心に支援を要する児童の対応を組織的に行うことができてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とされる児童に対して、個々にあった支援をしていくために、保護者との連携をより深めていく必要がある。
5 生活指導	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活指導の手引き」を活用し、全教職員による一貫性のある指導をして、基本的な生活習慣の確立をさせた。 ・いじめ防止、人権、不登校対策に関する研修やケース会議を実施することで、全職員がいじめについて説明でき、共通認識をもって対応することにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導したことの定着が徹底できないことがあり、児童への寄り添い指導体制と保護者連携をさらに強化していく。 ・ルールとマナーをはっきりと区別し、ルールは必ず守らせる。マナーは、相手のことを考えたことことを奨励することを徹底する。 ・不登校傾向の児童が増加傾向にあり、それぞれに異なる課題を抱えている。より個に応じた指導の工夫が必要である。

6	研修・研究	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間講師を招聘した全学年研究授業の実施による授業改善をした。その成果を研究発表以降の授業にも取り入れている。 ・一人一台のタブレット端末を活用した指導をして、授業のねらいを達成するための一助とすることができた。 ・月1回以上のミニOJTを実施し、教員間の自発的な授業力の向上に繋げた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「国語好き」につながる実践研究に取り組み、指導方法を工夫・共有する。 ・タブレット端末ならではのできることを意識して、授業のねらいを達成するための実践例を共有する。 ・児童の変容の検証をして、児童の自覚を促す指導の工夫をする。
7	家庭・地域の連携	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・町行事、大会等へが再開され、積極的な参加を促すことができた。 ・地域人材、教材の積極活用ができた。 ・5年生花植え活動等地域に対する愛着を深めることができた。 ・民生児童委員との情報交換会、学校運営連絡協議会(毎学期)を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材、教材の活用には学年によって差があるので、郷土資料館、図書館との連携の中で、更に新規の人材、教材発掘を進めていく必要がある。
8	経営・組織	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校長の示した学校経営計画にそってコロナ禍でも「学びを止めない」ために、全教職員が、一丸となって個性や能力を発揮しながら自分の役割を果たし、取り組むことで高い教育効果が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びを止めない」ことをその時期の感染状況や社会の風潮を考慮しながらできる教育活動を組織的に行う。 ・ベテラン教員だけでなく、若手教員に近い世代の教員(ミドル世代)にも積極的に人材育成への意識を更にもたせたい。 ・サービス事故「0」の継続。

2 学校関係者評価

(1) 主な活動

月日	会場	協議会内容等
令和4年7月19日	瑞穂第一小学校	令和4年度活動内容 学校経営方針 等
令和4年12月21日	瑞穂第一小学校	教育活動報告 学校評価方法確認 等
令和5年3月9日	瑞穂第一小学校	学校評価結果と改善策の説明 等

(2) 委員の構成

職名	氏名	所属等
1 評価委員長	榎本 修一	第一小学校PTA会長
2 評価副委員長	森 美佐子	主任児童委員
3 評価委員	粕谷 道子	瑞穂町保護司
4 評価委員	飯田 祐子	民生児童委員
5 評価委員	船越 拓真	箱根ヶ崎駐在所

(3) 学校関係者評価で出た主な意見等

<ul style="list-style-type: none"> ・登下校の交通安全については、多くの児童がしっかりとできている。しかし、青信号が点滅していて赤信号に変わる直前に横断する児童がいたり、公道で周りを気にせず走り回ったりする児童がいる。事故があつてからでは遅いので、指導の徹底が必要である。 ・気持ちのよい挨拶してくれる児童がいる反面、挨拶をしない児童がいる。保護者、地域社会のつながりを大事にしたり、不審者から身を守ったりする意味でも、より一層の挨拶への指導が望まれる。 ・学校では、読書に力を入れて積極的に時間を確保しているが、家庭での読書に対する時間が短くても仕方がないと考える。読書ではなく、スマートフォンやタブレットから情報を得ている時間が多くなっている。
--

3 今年度の学校経営計画の実現状況について

重点事項 1	学力向上
(1)取組状況	○学習習慣の確立、 学習意欲の向上 ・自主学習ノート ○言語能力の向上
(2)成果	○4年生の自主学習コン クール応募100% ○語彙や主語等に着目し た読みの習慣形成
(3)課題	○自身で学習計 画を立てること ○書くことへの 慣れ
(4)次年度に向けての改善策	○自主学習の計画に 関する指導推進 ○書く活動の推進 ○読書に関する
重点事項 2	生活指導
(1)取組状況	○基本的な生活習慣の 確立 ○いじめ不登校対策 ○全教職員による一貫性の
(2)成果	○学年所属意識の向上 ○いじめ不登校に関する 組織的な対応 ○生活指導夕会時
(3)課題	○児童への 寄り添い指導 体制と保護者 連携
(4)次年度に向けての改善策	○校内支援体制の 充実とケース会 設定時間の保障 ○生活指導の手引きの
重点事項 3	研修・研究
(1)取組状況	○国語科の校内研究発表 ○ミニOJTの実施 ○シミュレーション授業の 実施
(2)成果	○年間講師を招聘した 全学年研究授業の実施 による授業改善等 ○学習用タブレットPCを
(3)課題	○「国語好き」 につながる手立 ての実践研究 ○指導方法の
(4)次年度に向けての改善策	○児童の変容の検証と 自覚を促す指導の工夫 ○学年内の日常的な 相互授業参観の実施